

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

平成18年9月8日

第716号

〒952-1209 佐渡市千種155

: 0259(63)4156(直) 4115(代) Fax: 4117

<http://www.sado.co.jp/kanaisyo/>

E-mail: kanal es@sado.ed.jp



今年も異常に暑い夏でしたが、研修室にクーラーをつけていただいたお陰で、快適に仕事をすることができました。感謝、感謝です。また、夏季休業中の活動にご参加・ご協力くださいました皆様にも、感謝、感謝です。2学期も頑張ります。

発達障害の子どもの特性について

～情緒障害特別支援学級担任研修会より～

LD・ADHD・高機能自閉症などのお子さんについて、物事のとらえ方の特性について学びました。いわゆる「同時処理」と「継次処理」というとらえ方の違いについてです。

仕事を完成させるとき、組み立て方の全体図の方がよく分かる人は「同時処理」の得意なタイプ、手順表の方がよく分かる人は「継次処理」の得意なタイプと言えます。人はこの2タイプをうまく使い分けて情報を処理していますが、発達障害のあるお子さんの場合は、どちらか一方がすごく得意で、もう一方はからきし弱い、ということが多いそうです。そこで、お子さんの得意な認知処理様式のタイプを知ること、指導に役立てようという動きが広がっています。個々に合ったやり方で、物事を理解しやすいように教えようということです。

どちらが得意かを知るための検査がK-A-B-Cという検査で、60分～90分くらいかかります。ご希望の方は申し出てください。(香遠)



聴覚障害の子どもの理解

～新潟県特別支援教育研究会言語・聴覚部研修会より～

講師の筑波大学教授の佐藤先生は「子どもが『分からないからもう一度教えてほしい』と訴えてきたときには、分からないことをあいまいにしたいくない心の表れととらえて誉めてほしい」と話していました。機器の使用や座席の配置などの支援も大切ですが、基になるのはその子どもを分かるとうとする姿勢です。

障害理解の上で疑似体験は大切です。ある程度の体験時間の確保と十分な事前・事後指導を行い、「我々に何が出来るか」を考えることはとても意義があります。しかし、体験は体験でしかありません。聞こえる世界の我々が聴覚障害者本人になりきることはできませんし、これだけでは聞こえ方が一人一人違う聴覚障害者の理解にはなりません。大切なのは、「聴覚障害のある子どもだから支援を」というように一方的に支援を押し付けるのではなく、その子どもとかわりながら、必要な支援を共に考えていくことだそうです。

聴覚障害のある子どもに限らず、他の子どもにも生かせる内容が多く含まれた講演でした。(中村)



親の会コーナー



8月19日(土)に、佐渡養護学校の本田美佐子先生を講師にお招きし、教育講演会を行いました。本田先生からは、経験に基づく具体的なアドバイスをいただき、大変有意義な講演会となりました。どうもありがとうございました。また、暑い中、参加くださった皆様、大変ありがとうございました。感想の一部を紹介します。

先生たちのような理解のある人が回りにいてくれることで、本当に救われてきました。笑顔で私なりの人生を送っていきたいと、先生の話聞いてあらためて思いました。ありがとうございました。

私は講演会に初めて出ました。子どもが興奮するので、人ごみに出さなかったんですけど、これからはたくさん出してあげたいなと思います。今日、講演会に出ることができてよかったし、また参加したいなと思います。

うなずくところがたくさんありました。また少し初心に戻って子どもと接してみたいと思いました。怒る回数を減らしてみようかな。



障害があるからといって暗くならず、せつかく生まれてきたのだから前向きに楽しく過ごせたらいいと思いました。



お知らせ



親子ハイキングについて

今年度もことば・こころの教室親の会行事として、親子ハイキングを計画しました。多数の参加をお待ちしています。

日時 平成18年9月18日(月)(敬老の日)
10:00~13:00

会場 苔梅の郷公園(佐渡市羽吉字駒坂)

内容 レクリエーション・カレー

等の会食

親の会会員の皆様へは、すでに案内を送付してあります。



判定委員会について

平成18年度第1回判定委員を下記日程で行います。判定委員の皆様、よろしくお願ひします。

日時 平成18年9月20日(水)16:00~

会場 金井小学校校長室



夏季相談会・夏季言語検査の報告

夏季相談会の新規相談件数は18件ありました。また、夏季言語検査は9保育園から申込みがあり、計147名の検査を行いました。